

血を流して勝利してきた組織争闘戦

5年間全般の印いの

日刊 動労千葉

83. 10. 21

No. 1473

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

座談会

三里塚ジェット闘争の5年間をふり返って

「生命をかけて守りぬいてきた俺たちの組合なんだ」(4.17武装襲撃と闘いぬいて)

全組合員がバリケードを築き

「本部オルグ団」の襲撃を阻止した

(司会)

「本部」は一九七八年の9・17三里塚集会参加を理由に、翌年三月二十日に地本の執行権を停止し、三十日に四名除名、全執行委員に権利停止の処分をかけてきましたね。これに対して三月三十日に臨時大会を開き、その日に結成大会をやったわけです。それ以降、各支部の結成大会をつぶすために「本部オルグ団」がくるわけですが、職場の状況はどうでしたか。

(Wさん・千葉転支部・電運士)

新小岩の結成大会へ行くのに支部を空けて帰ってくると、室内中「タバ」「ウジ虫」と、スリッパにまでイタズラ書きをしていた。確かにひどかったですよ。乗り入れの乗務員はよくがんばったと思います。東京へ行くと12/13人いてやり合っただけで興奮して帰ってきたもんです。一つの職場に100人、200人で来ては話しになりませんよ。あれだけの人数に乱入されたら大変なので、階段をロッカーでふさぐなど最善の防護策を構じて守りきりました。青年部がほとんど帰らず、役員と交代制でろう城しましたね。



「本部オルグ団」を迫及する幕張支部組合員
(1979年4月、幕張電車区)

(Uさん・幕張支部・構内運転係)

幕張には国労が半分位いて、分会が「暴力集団」云々といってる中で200人位のオルグ団が来たんです。バリケードなどで守りきると国労組合員の意識も変わってきて、一緒に守ろうといって次にオルグ団が来た時は手助けしたんですよ。革マルは強そうに見えたけど、全く自信がなかった。だから数を出したんです。革マルの感想文を見ると、すごく恐怖している。だから再登録もできなかったと思うんです。背景には何のために来ているのかわからないからです。だから「信濃川を渡って二度と動員に出ないと決意した」なんて書いてちやうんですよ(笑)

動労千葉の勝利は

4・17武装襲撃をはね返し勝利したからだ

(司会)

津田沼の場合はどうですか。4・17はそれまでの暴力オルグとちがって武装してきた訳ですが。

(Sさん・津田沼支部・電運士)

Fさんは鉄パイプで殺されると思ったらしいです。それでも動労千葉を守るんだと闘ったそうです。それが津田沼の強さだし、動労千葉をひっぱりぬいた力だと思えますね。

(司会)

そうですね。三階の講習室に追いつめられた時Fさんは「支部長もう殺されるな」といったんです。「降参しよう」ではなくて、やるとこまでやるうという意志を示したんだよね。動労千葉一四〇〇の強さがあらわれていると思いますね。

(Wさん)

津田沼を襲撃したときいて、すぐ行っただけど、庁舎はすごい状況でえらいことをやったなと思いましたよ。

(Uさん)

権力がやらせていたことは事実ですよ。

(Wさん)

それは千葉でもホームの詰所に大挙して来た時殴られた局課員が「公安機動隊を入れろ」と三回電話したけど、「はいわかりました」といってとうとう来なかったですよ。(以下つづく)